

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 千田小春アリシア
所属 (School) 生命環境科学域 応用生命科学類
学年 (Grade) 2

留学先 (Name of overseas institution)
全北大学

留学期間 (study abroad period)
2023/2/12~2023/2/25

留学レポート Study Abroad Report

▶留学のきっかけ

2022 年初夏に外務省の対日理解促進プログラム「JENESYS 2022」の日韓大学生オンライン交流プログラムに参加した。私は現在、鶴橋コリアンタウンの近辺に住んでおり、日常や文化の面では韓国の存在が非常に大きい一方で、様々なニュースを見ていると政治的な距離感にギャップがある様子をよく目にしていた。文化的、地理的など様々な要素で日本と近い韓国について、もっと知って、相互協力のためにも距離を縮めていく必要があると感じ、韓国への興味をもった。JENESYS 2022 では、日韓の参加学生の相互派遣が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の状況により中止となってしまった。無念の思いを晴らすため今回大学の海外語学研修として渡韓をすることを決めた。

▶研修概要

●授業

50分授業×3コマが7日分あった。41人の日本人学生が初級(17人)・初中級(19人)・中級(5人)のクラスに分かれ全て韓国語による講義を受けた。私の所属した中級クラスではクラスメイトが少なかったため、先生が積極的に生徒に発言をさせるスタイルだった。配布された韓国語のみの教材を使用しながら、自己紹介、インタビュー、空港などでの模擬会話、形容詞や依頼の表現など、生徒同士で実際に会話の練習をしながら実践的に学習を進めていった。様々な場面での模擬会話は韓国語学習の大きな糧となった。中級クラスの参加学生は中学の頃から韓国語の勉強を始めていたり、TOPIK5級を取得していたりするなど、基本の単語・文法や日常会話は既にできるレベルであった。初修外国語の授業も取っておらず、韓国語の学習歴も1年にも満たなかった私(TOPIK1級レベル)は、まず授業についていくことで必死になっていたが、自分のレベルよりも高いクラスに居させてもらえたことで、焦燥感がバネとなり大きく成長が出来たと思う。常に翻訳アプリを用いながら授業に食らいついており、先生やクラスメイトも、私のレベルの低さを見越して優しく接してくれたことに大変感謝している。それまではDuolingoにおける簡単な文の理解のみで会話を1度もしたことがなかった私が、この語学研修を経て、簡単な日常会話を出来るようになるまでには成長でき、研修後に会った韓国人の友人にも驚いていただけたのが嬉しかった。中級クラスのみ、プレゼンテーション発表の課題があり、私はJENESYS 2022でも取り組んだ、日韓の小都市と少子高齢化についての発表を行った。5分間の発表のため内容は簡素だったが、韓国学生に原稿を添削してもらい、原稿を頑張って覚え、小都市と少子高齢化に関する発表が出来たことで、自分の深い学びにも繋がった。

●現地学生との交流

日本人42人に対して韓国学生4人がボランティアで交流を行ってくれた。プログラム内ではキャンパスツアーや交流会に参加をしてくれた。交流会1回目はYouTubeをみたり質疑応答タイムでの異文化交流で、ディスカッションなどもう少し深い学びが出来るように構成されていたら良かったと思う。交流会2回目は韓国学生1人が自分でコンテンツを作成してくれており充実していたが、大学の国際協力側がもう少し文化理解となる内容を準備するべきだと思った。自由時間で韓国学生を誘って出かけることはできたが、日本人に対し韓国学生が少なすぎたため交流具合に大きな差が出来てしまったと思う。個人的には、韓国の学生とご飯を食

べた際に、日韓の科学技術の発展にどのような違いがあるのかについて話をすることができとても学びとなった。また、慣れない街なので美味しいご飯屋さんに入れて行ってくれたり、動物園に行っても様々な説明を受けたり、韓国語プレゼンテーションのスク립ト添削なども韓国学生に行ってもらい、とても感謝している。

●観光・文化体験

プログラム内で 2 日間のソウル観光があった。大学からソウルまでがバスで 3 時間強かったため、実質の観光時間はとても短かったが、南山ソウルタワー、景福宮、明洞などを観光することが出来た。また、プログラム内で韓国の国技、テコンドーの体験も行った。世界的に流行った Handy Clap の曲に合わせてテコンドーを体験した他にも、テコンドーの博物館の見学で、朝鮮半島発祥のスポーツであるテコンドーの歴史や国民との関りなどについても学んだ。大学近辺にあった韓屋村では日本人学生全員で韓服を着て韓屋村を周って楽しむことが出来た。午前に授業を受けた後に午後は自由時間が取れたり、土日でも自由行動ができたりしたので、大学近辺の繁華街で食事や買い物を楽しんだり、動物園や博物館、韓国式サウナ「チムジルバン」などへも足を運べた。

▶生活の様子・食事・ハプニング

大学の授業を受ける棟から徒歩 15 分ほどの距離にある大学の敷地内の寄宿舎に 2 人 1 部屋で宿泊した。最初の週は大学側の手違いで全員が男子・現地学生用の寄宿舎に手配されてしまい、布団がなかったり、トイレトペーパーがなかったり、水道とシャワーが繋がっていたりと、少し不便な中で生活をしていたが机や棚はしっかりあったので慣れると快適に過ごしていた。韓国ではほとんどの部屋に「オンドル」と呼ばれる床暖房が整備されているため寒い中でも快適に過ごせた。しかし、最初はオンドルの存在を知らなかったため、床に広がっていたスーツケースが温まり、日本からのお土産のチョコレートやソフトキャンディー、さらには化粧品までも溶けてしまい驚いた。2 週目からは、きちんと留学生用の寄宿舎に手配され、ホテルの様なアメニティー、クリーニングサービスがあり快適だった。食事は大学内の食堂でとった。日本はお盆に食事の入ったお皿を載せていくが、韓国ではお盆自体が直接様々な惣菜を載せられるプレートの形をしており、お盆をとってそこに食事をそのまま載せていった。食堂でも外食でも毎食キムチを食べた。どのレストランでもキムチはフリーサービスで用意されており面白かった。和食とは異なる食材（どんぐりのゼリー「トトリムク」や魚肉の練り物、腸詰め「スンデ」など）や味付けも多かったが大抵美味しく味わった。2 週目は大学の休業期間のため食堂がしまっており、大学側に手配してもらったサンドイッチなどを朝食に食べた。サンドイッチは日本でもある味だがものすごく美味しく毎回大変感動した。韓国ではサラダなどによく薄切りのりんごを合わせるのだが、サンドイッチにもレタスと一緒に毎回りんごが入っておりとても美味しかった。

▶持ち物のアドバイス

寒い時期だったので暖かいダウン、教材や貴重品などが入る軽いバッグ、洗濯物などを入れるエコバッグなどがあると良い。日本からのお土産や手紙、マステ、ペンもたくさん準備していたので現地でお世話になった学生に感謝の思いを形でも渡すことができ良かった。

▶学び

韓国語を日常的に使う機会が増えたため、現地の人と会話をする上での語学はとても上達したと思う。簡単な日常会話や表記の理解、交通の便の利用は出来るようになったので、今後個人的に韓国旅行をする際にも非常に役立つ能力が身に付いたと思う。また、私は今回が初の渡韓で、多くの発見があったことは間違いない。語学の上達や現地学生との交流が出来たことはもちろん、韓国の街の様子を実際に目で見てこれたことは大きかった。道路や地方のバスの運転の荒さなど、日本のインフラとの違いに驚いた一方で、決済システムなどに感動した。博物館で朝鮮王朝の本郷、全州市について知り、今回全州市に行けたことに大きな誇りを感じた。人とのコミュニケーションの取り方や、分け合う食事の文化など、日本人と韓国人の細かな性質の違いもたくさん発見が出来た。街中でも日本人に対して積極的に声を掛け、友好的な韓国人が多いことを感じ、大変好感が持てたし、日本側ももっと韓国側に友好的に近づいて行ければいいと感じた。

▶今後のモチベーション

韓国学生と仲良くなれたのはとても嬉しかった。これからも SNS を通じて積極的に韓国語でコミュニケーションをとっていきたい。韓国学生には、色々な場所に連れて行ってもらったり、日本からのお土産のお返しの手紙もいただいた。また、交流会の準備をしてくれたり、別れ際には泣いて悲しんでくれる学生もいた。ボランティアとして参加してくれたのにこんなにもお世話になった韓国学生に、ぜひまた韓国や日本で会いたい。それまでに引き続き語学勉強に精を入れ、韓国の歴史や文化についても学んでいきたい。